

第20回八王子市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日	時	平成25年9月12日（木） 10:00～12:00
場	所	八王子労政会館 2階第一会議室
議	題	議事 (1) 八王子市地域公共交通活性化協議会規約及び事務局規程の改正について (2) 八王子市の公共交通のあり方（案）及び地域交通事業導入ガイドライン（案）について (3) その他
●議事(1) 八王子市地域公共交通活性化協議会規約及び事務局規程の改正について 【事務局説明】 - 八王子市の組織改正が8月26日に行われたため、規約及び事務局規程の組織名を変更し、その旨、事務局より説明した。 【主な意見、質疑】 - 特になし 本件については、事務局提案の内容で合意が得られた。 ●議事(2) 八王子市の公共交通のあり方（案）及び地域交通事業導入ガイドライン（案）について 【事務局説明】 「八王子市の公共交通のあり方（案）」及び「地域交通事業導入ガイドライン（案）」の修正及び、地域交通事業導入ガイドライン（案）のスケジュール表を追加した旨を事務局から説明した。また、上記資料の作成主体を、「八王子市地域公共交通活性化協議会」とし、今後、資料の取り扱いについては行政内で精査する旨を事務局から説明した。 【主な意見、質疑】 (委員) 地域交通事業を導入する際、誰がどのように要望を想定しているのか。 ⇒(事務局) 事業導入の要望に際しては、地元が主体となった運営を前提としているため、個人ではなく、町会や自治会などの団体による要望を想定している。詳細については各々の地域の特性によって千差万別なので、詳細については、市と調整しながら要望を提出していただくことになると考えている。 (委員) 既存の地域交通事業を見直す場合は、資料4「地域交通事業導入スケジュール(案)」の通りでよいと考えるが、新しい路線を定める場合は、要望受付から実証運行までの期間が1年では短いのではないかと。車両の確保など現実的には難しいのではないかと。思うがどうか。 ⇒(事務局) 実証運行までの期間を最短で1年としているが、それ以前に「運行内容の検討」を十分行い、八王子市地域公共交通活性化協議会（以下、活性化協議会）の改善要望に対して見直し案を提出する必要がある。従って、要望受付の段階で、事業化の可能性（住民の意向把握、乗車人数の想定、収支計算、車両の手配など）について、詳細まで決まっている場合は、最短の1年で想定しているが、現実的には受付までに、市とや		

り取りして受付資料を作成する時間が必要であると考えている。

- ・（委員）本格運行を実施する場合は、道路運送法第4条の「乗合」許可申請に2～3カ月を要する。そのため、協議会における「本格運行の可否検討」は前年度の1月までに終わらせる必要がある。

⇒（事務局）資料の協議会における「本格運行の可否検討」については、前年度1月までに終了するよう修正する。

- ・（委員）資料3「地域交通事業導入ガイドライン（案）」の中の、（2）地域交通事業導入フローでは、実証運行の延長の指標を収支率（乗車率）20％としているが、20％の根拠はなにか。

⇒（事務局）収支率（乗車率）20％は、他市を参考に、これまでの活性化協議会での議論をふまえ、設定している。20％はあくまで1つの目安であり、実際、「実証運行の延長」の可否については、市の予算を考慮した上で、決定することになると考えている。

⇒（会長）一般的に、地域公共交通の経営を単独で成り立たせるのは難しいといわれており、収支率と乗車率はあくまで運行継続の目安と考えていいのではないかな。

全国的な例をみても収支率（乗車率）20％の根拠については厳格に規定している自治体はないと思うが、感覚的には20％はあたらずとも遠からずの数字はないかと思う。

本格運行の評価基準については、25％は甘めだと考えている。私が関わっている自治体では30％のところもある。評価基準は、努力しないでクリアできる数値ではだめで、どんなに努力しても無理な数値でもダメだと思う。単純に数値による判断だけではなく、努力した結果25～30％となればいいのではないかと思う。

- ・（委員）指標の収支率と乗車率については、どちらか一方をクリアすればいいのか、両方クリアする必要があるのかよくわからない。表示方法を工夫する必要があるのではないかな。

⇒（事務局）今後、指標を収支率と乗車率のどちらにするのかは、明確にする必要があると考えている。指標がないと、乗客が乗らないバス（空バス）が継続して運行する可能性があるため、空バスが運行しないように運行継続の指標は必要であると考えている。

- ・（会長）乗客が乗らない公共交通事業に対して市が財政負担することは、市民の理解を得られないのではないかな。確かに、地域公共交通は、通常の事業収支が成り立たないケースが多いが、ある程度は経営的な面にも考慮しないと長続きしない。運行継続の判断指標については、収支率と乗車率の数値だけではなく、利用伸び率やその他の努力など多様な指標が必要なのかもしれない。

⇒（事務局）多様な評価指標（案）を事務局で作成し、今後の活性化協議会で提案させていただきたい。

- ・（委員）一般的なバスについての意見だが、多摩市との市境の唐木田駅周辺では、市域をまたぐとバスの相互利用ができなくなる。市をまたいで利用したいというニーズはあるので、八王子市と多摩市で協力するといいのではないかな。

⇒（事務局）コミュニティバスについては、市の境で相互利用ができないのは全国的な課題でもある。八王子市については、当該地域ではちバスの運行をしていないので、現時点では、多摩市との協力は考えていない。一般の路線バスは、市域が異なっても運行している。

⇒（委員）行政境に停留所がおけなかった為、路線が実現できなかった例があった。行政等と連携して、停留所設置について住民の皆さんのご協力を仰ぐことも路線実現には必要だと思う。

- ・（委員）「バスの定員に対して、何人乗っているか」が乗車率で、運行経費に対する利益率が収支率である。収支率と乗車率は本来別の概念なので、同じ指標として扱うとわかりにくいのではないか。

⇒（事務局）先ほど議論があったように、今後指標を収支率と乗車率のどちらにするのかは、明確にする必要があると考えている。

- ・（委員）八王子市には、いろいろな地域があり、いろいろな課題がある。行政として八王子市の中の交通全体を見据えて、地域が前向きになれるような公共交通のあり方を考えていく必要があるのではないか。

⇒（事務局）八王子市の公共交通のあり方についても今後検討していきたいと考えている。

- ・地域交通事業導入の要望は、個人でもできるとよいと思ったが、だめなのか。また、これまで、個人で要望してきたケースはあるのか。

⇒（会長）市民目線でみれば、個人的な要望がまず入口にあるのでは。

⇒（事務局）どの程度の規模の団体が要望を出すのに適当なのか、引き続き研究していきたい。また要望の受付段階は重要なので、案を作成し協議会で議論して頂きたいと思う。なお、個人で要望して頂いたケースは今のところない。

- ・（会長）地域交通事業導入の要望時期は、4月となっているが、この時期だけしか受け付けないのか

⇒（事務局）スケジュール上のしほりがあるのは、行政側の予算編成の時期である9月までに「運行の概要」が決まっている必要があるため、必ずしも受付は4月である必要はない。受付時期については、随時と改めたい。

- ・（委員）地域交通事業実施に際しては、八王子市の広報などでぜひPRして欲しい。これまでの実績についても事例をPRして欲しい。

⇒（会長）実証運行をはじめる際には、広報で特集を組む等のPRすることは大事だと思う。地域の努力を市民に知っていただく必要もあるのでは。

⇒（事務局）現在の地域交通事業は、モデル運行なので、本格運行の際は検討したい。

本件については、継続的に審議していくことで合意が得られた。

●議事(3)その他

【主な意見、質疑】

特になし